

佐賀県における水田酪農経営の諸問題

藤崎 斌

(佐賀県農業試験場)

HUZISAKI, M.

Some Problems of Dairy - Farming in Rice - Zone, Saga Pref.

1. 最近における佐賀平坦酪農の動向

佐賀平坦地域における酪農経営は37年以降停滞の状況にある。その理由としてかんがえられることは、第一に国内経済の発展によって、農業労働力が急激に減少して、労賃の値上りをきたし、農村にも就業の機会が増大した。とくに平坦東部では低労働報酬しか得られない酪農に見切りをつけて、農外に就業したことである。

第二に水稻の増収が近年顕著で、また米価の上昇によって高収益となり、大規模水田作農家の場合は、稲作だけで十分生活できるようになったので、割の悪い酪農をやめ、稲作重点経営に転向したこと。

小規模経営の場合は水田利用の粗飼料確保に困難性があり、多頭化による酪農合理化の大きな壁となり酪農を捨てたこと。

第三に山麓に近い農家では、酪農から相対的に有利なみかん作経営に切り替えたこと。などがかんがえられる。

2. 水田酪農の立地的条件

まづ自然的条件としては、佐賀平坦が熊本、筑後、筑豊とともに内陸平地として、九州では第一級の暑熱地であり、そのうえ低湿地のため湿度もたかいので気象的条件は乳牛飼養にとって、あまり良い条件ではない。

また水田率が高いことから、有利な水稻生産が優先し、自給飼料の生産は水田裏作利用に限られるので、自給飼料の確保がむずかしく、飼料給与の季節的不均衡をきたすことになる。

さらにクリークが多く、蚊の大発生源となり、肝蛭や、三養基南部の住血吸虫の生息も悪条件にかぞえられる。

社会経済的条件としては、平坦地ではとくに農外就業の機会が増大したため酪農化がむずかしくなったことや、経済的にみて稲作優先の生産になりがちなこと。宅地化や衛生思想の普及によって、家畜の

糞尿処理の問題化も酪農経営上無視できないことがらである。

3. 収益性の高い酪農経営の条件

酪農が成立するためには、流通機構が整備されていることは、いわゆる前提的な条件だと考え、その上立って収益性の高い水田酪農経営をみると、①飼育している乳牛は、優秀な基礎牛によって繁殖していること。②粗飼料の生産規模に応じて、頭数を増加し、たんなる表面的な頭数だけの増加ではないこと。③飼料の給与は、栄養比のバランスが保たれていること。④対暑的施設と管理がなされていること。⑤飼料作物の栽培に適した圃場条件であると同時に増収技術がともなっていること。⑥有効な省力技術がおこなわれていること。などがとくに感ぜられた。

4. 水田酪農確立のための諸問題

水田酪農では、粗飼料生産はほとんど裏作によっており、裏作での飼料作物の作付面積は、成牛1頭当り約30a程度は必要である。

しかし実際の場合では、経営面積の広い酪農家では、水稻作労働と飼料作労働の競合から、経営面積の狭い酪農家では、飼料作物作付地の不足などの理由によって、全般的に水田酪農では粗飼料生産の量的不足が大きい問題である。

経営面積の狭いことによる飼料作物作付地の不足に対しては、裏小作や契約栽培が、個々の農家間としてではなく、組織的に、あるいは集団的な方法によって、農協等が推進母体となって、地域的に解決されることがのぞましい。

労働競合による飼料作物の作付不能に対しては、とくに飼料作物の収穫作業の能率化が必要であり、そのためには飼料の青刈給与体系から、サイレーヂ給与体系への移行がのぞましい。